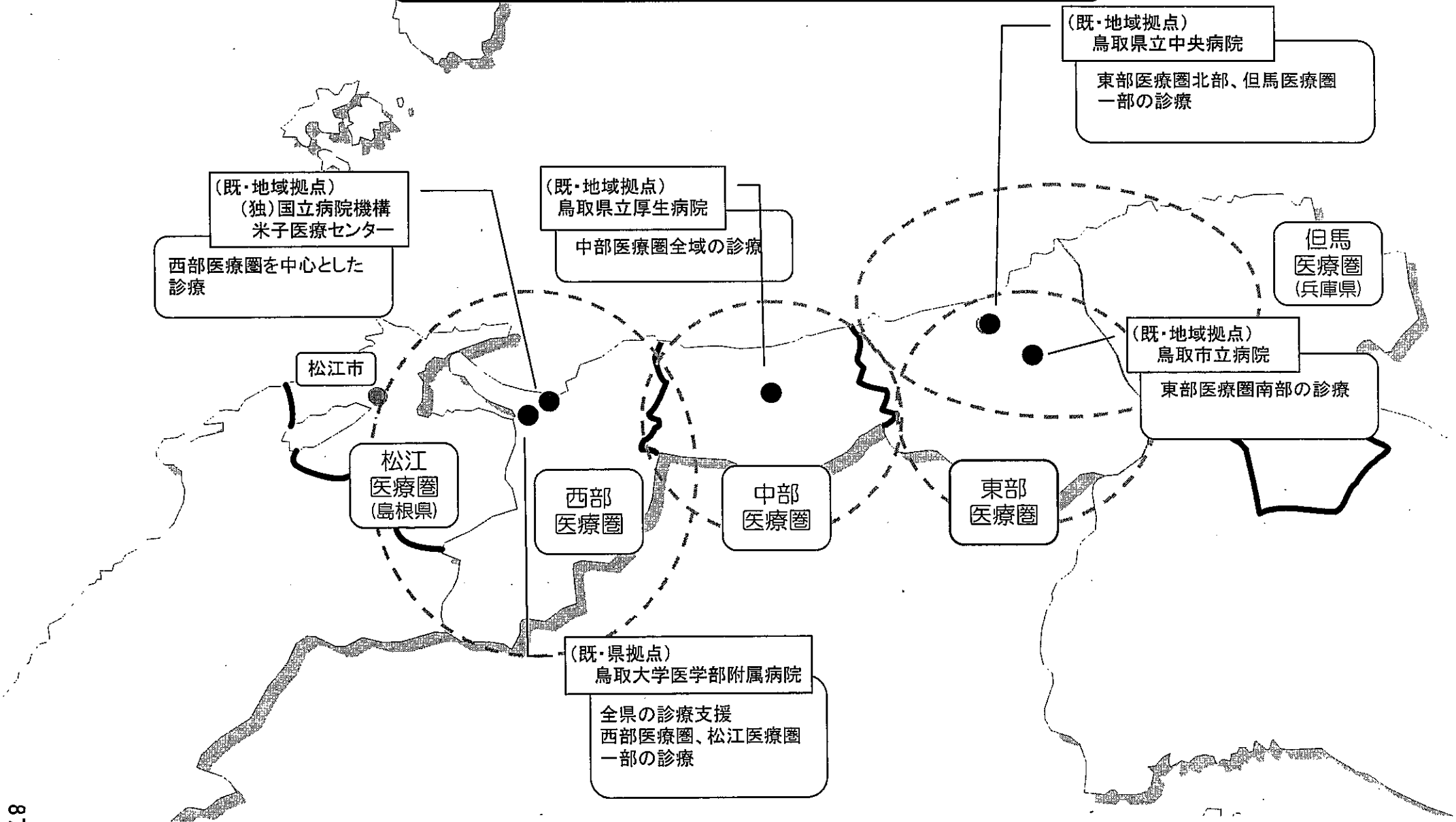


鳥取県におけるがん診療体制



岡山県

事 務 連 絡
平成20年12月9日

厚生労働省がん対策推進室長 殿

岡山県保健福祉部健康対策課長

岡山県地域がん診療連携拠点病院の現況報告の追加資料について

平成20年10月30日付け健対第968号「平成20年度がん診療連携拠点病院の現況報告について」にて、岡山県の2次医療圏の概要並びに県内がん診療連携拠点病院の現況報告書を提出したところですが、別添のとおり追加資料を提出します。

健康対策課 健康づくり班 川井
〒700-8570 岡山市内山下2-4-6
TEL:086-226-7328 FAX:086-225-7283
MAIL:mutsuko_kawai@pref.okayama.lg.jp

平成19年の地域がん診療連携拠点病院推薦において、岡山県の各拠点病院の地域分担、機能分担、連携方策について方針を示しました。平成20年にける現況は以下のとおりです。

○がん診療連携協議会

(平成19年度の状況)

県がん診療連携拠点病院、地域がん診療拠点病院、県

(目標)

県がん診療連携拠点病院、地域がん診療拠点病院、県、県医師会、県病院協会、県看護協会、県薬剤師会、その他

(平成20年度現況)

県がん診療連携拠点病院、地域がん診療拠点病院、県、県医師会(必要時)

※がん診療連携協議会は平成19年度と同様に、県がん診療連携拠点病院、地域がん診療拠点病院、県、並びに必要なに応じて関係者(医師会)等の参加にて開催されている。

平成19年度後期から平成20年度は、「岡山県がん対策推進計画」の策定のため、策定委員会が開催された。策定委員は県医師会、県病院協会、県看護協会、県薬剤師会、その他(患者会、報道、健康ボランティア団体)から選出されていたため、がん診療連携協議会の発展を必要としない状況であった。

○情報提供の充実

(平成19年度の状況)

がんの特化したページ 4拠点病院／7拠点病院

わかりやすい入り口 2拠点病院／7拠点病院

(目標)

がんの特化したページ 7拠点病院／7拠点病院

わかりやすい入り口 7拠点病院／7拠点病院

(平成20年度現状)

がんの特化したページ 4拠点病院／7拠点病院

わかりやすい入り口 4拠点病院／7拠点病院

※各拠点病院間の相互リンクなど、情報提供は別の視点では充実してきている。今後も患者がアクセスしやすい情報提供体制の整備に努める。

○緩和ケア研修

①「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準じた研修会の実施。

(平成19年の状況)

実績なし

(目標)

3回実施(50人×3回=150人)

(平成20年度の現状)

実績なし(平成21年1月開催予定)

②緩和ケア病棟を有する拠点病院における実施研修

(平成19年の状況)

実績なし

(目標)

随時実施(1ヶ月程度 各期間1名ずつ)

(平成20年度の現状)

医師 1日間 1人

医学生 5日間 1人

看護師 3日間 3人

③研修会の開催

(平成19年度の状況)

5拠点病院/7拠点病院

(目標)

7拠点病院/7拠点病院

(平成20年度現状)

7拠点病院/7拠点病院

※「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準じた研修会については岡山県がん診療連携協議会において緩和ケア実務者会議を部会として立ち上げ、情報の共有と協力体制整備がされ、現在、来年度早期の研修会開催に向け、調整中である。

○地域連携クリティカルパス

(平成19年度の状況)

0拠点病院/7拠点病院

(目標)

7拠点病院/7拠点病院

(平成20年度現状)

1拠点病院/7拠点病院

※がん診療連携協議会の部門会として外来化学療法地域連携パス実務者会議、がん術後地域連携パス実務者会議において、医療圏をまたがる地域連携を視野にいれて、検討を重ねている。

○がん診療に携わる専門スタッフの配置

①医療心理に携わる責任者を配置

(平成19年度の状況)	6拠点病院／7拠点病院
(目標)	7拠点病院／7拠点病院
(平成20年度現状)	7拠点病院／7拠点病院

②がん対策情報センターによる研修を終了した相談員の配置

(平成19年度の状況)	2拠点病院／7拠点病院
(目標)	7拠点病院／7拠点病院
(平成20年度現状)	7拠点病院／7拠点病院

○相談支援連絡会議

(平成19年度の状況)	平成19年3月1回実施
(目標)	年1回以上実施
(平成20年度現状)	平成20年4月、7月開催

※3～4ヶ月ごとに開催され、情報共有がなされている。平成20度は、岡山県内のがん相談支援センターに共通のパンフレットを作成した。

○がんに関する主要な指標の公表

(平成19年度の状況)	1拠点病院／7拠点病院
(目標)	7拠点病院／7拠点病院
(平成20年度現状)	2拠点病院／7拠点病院

※5年生存率の公表については、がん対策基本計画の主旨を踏まえ、各医療機関で検討されている。また、5大がんの一部のみ公表している医療機関もある。

事 務 連 絡
平成20年12月16日

厚生労働省がん対策推進室長 殿

岡山県保健福祉部健康対策課長

岡山県地域がん診療連携拠点病院の現況報告の追加資料について

平成20年10月30日付け健対第968号「平成20年度がん診療連携拠点病院の現況報告について」にて、岡山県の2次医療圏の概要並びに県内がん診療連携拠点病院の現況報告書について、別添のとおり追加資料を提出します。

健康対策課 健康づくり班 川井 〒700-8570 岡山市内山下 2-4-6 TEL:086-226-7328 FAX:086-225-7283 MAIL:mutsuko_kawai@pref.okayama.lg.jp

複数配置の医療機関の特徴

岡山県

1 県南東部医療圏

県南東部医療圏は、人口約 92 万人（県人口の 47.0%）、面積約 1,900 km²（県面積の 26.8%）の二次医療圏である。岡山県の交通の要衝にあたり、真庭医療圏、高梁・新見医療圏、津山・英田医療圏からの患者の流入がある。

○岡山大学病院（岡山市）

岡山大学病院は、平成 18 年 8 月に岡山県がん診療連携拠点病院の指定を受け、県内に 5 施設（平成 20 年 2 月から 7 施設）あるがん診療拠点病院をまとめている実績がある。がん診療連携拠点病院の中で最も歴史があり、地域の医療機関との連携体制が整っている。また、特定機能病院、肝疾患診療連携拠点病院、エイズ治療拠点病院、地域周産期母子医療センターの指定を受け、地域医療の中で中心的な役割を果たしている。

がん医療における特徴としては、中国・四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアムの基幹校として、看護師、薬剤師等のコメディカルスタッフを含めた人材育成並びに医療の均てん化において重要な役割を担っており、岡山県の医療従事者の養成、資質向上に欠くことの出来ない医療機関である。既に、腫瘍センター、放射線部門、緩和ケアチームが整備され、今後ともがん診療において中心的な役割を担う体制が整っている。

○岡山済生会総合病院（岡山市）

岡山済生会総合病院は、県内で最も早く平成 14 年 12 月にがん診療連携拠点病院の指定を受けた医療機関である。また、災害拠点病院、へき地医療拠点病院、エイズ治療拠点病院、無料低額診療事業実施医療機関の指定を受け、地域医療の中で中心的な役割を果たしている。

がん医療における特徴としては、岡山県内 7 施設のがん診療連携拠点病院の内、唯一緩和ケア病床を有し、その実績は 10 年になる。緩和ケア学会との共催による緩和ケア研修会（岡山県内で初回）の開催（1 月予定）、がん診療連携協議会の緩和ケア実務者会議において中心的役割を果たすなど、緩和ケアの普及には欠かせない医療機関である。

○岡山赤十字病院（岡山市）

岡山赤十字病院は地域がん診療連携拠点病院（平成 15 年 12 月指定）であると同時に、災害拠点病院、へき地医療拠点病院、救命救急センター、エイズ治療拠点病

院、地域周産期母子医療センターであり、地域医療において中心的な役割を果たしている。

がん医療における特徴としては、岡山県内のがん診療連携拠点病院の中で、最初のがんに特化した相談支援センターを開設、専任スタッフの配備を実施した。平成20年度においては、がん診療連携協議会のがん相談支援実務者会議において、県内のがん相談支援センター共通のパンフレットを作成するにあたり、中心的な役割を担った実績がある。

○国立病院機構岡山医療センター（岡山市）

国立病院機構岡山医療センターは、地域がん診療連携拠点病院（平成20年2月指定）であると同時に、地域医療支援病院、エイズ治療拠点病院、総合周産期母子医療センターであり、地域医療で中心な役割を果たしている。県北（真庭医療圏、津山・英田医療圏）からの交通の要衝に立地しており、県北の医療機関との連携が強い。

がん医療における特徴としては、血液のがんにおいて、無菌室23床を有し県内の中心的な役割を担っている。また、小児がんにおいても専門的治療が可能であり、真庭医療圏、津山・英田医療圏の患者を受け入れている。

2 県南西部医療圏

県南西部医療圏は、人口約71万（県人口36.6%）、面積約1,100km²（県面積15.8%）の二次医療圏である。交通の便から、高梁・新見医療圏からの患者を受け入れている。

○倉敷中央病院（倉敷市）

倉敷中央病院は、地域がん診療連携拠点病院（平成15年12月指定）であると同時に、地域医療支援病院、災害拠点病院、エイズ治療拠点病院、総合周産期母子医療センターであり、地域医療の中核的役割を果たしている。

がん医療における特徴としては、年間30,000人を超える入院患者のうち、22.4%ががん患者であり、がん医療分野において県下最大級の医療機関である。紹介数、逆紹介数が共に10,000件を超え、県南西部医療圏におけるがん診療において中心的な役割を担っている。乳がん、胃がん、大腸がんについては地域連携クリティカルパスの運用も開始しており、県南西部医療圏内の医療機関との連携体制が整っている。

○川崎医科大学附属病院（倉敷市）

川崎医科大学附属病院は、地域がん診療連携拠点病院（平成20年2月指定）であると同時に、救命救急センターを併設しているため、県北（高梁・新見医療圏、真

庭医療圏) 医療機関との、交通網を越えた連携体制が整備されている。また、特定機能病院、災害拠点病院、エイズ治療中核拠点病院、地域周産期母子医療センターであり、地域医療の中心的な役割を果たしている。

がん医療における特徴としては、中国・四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアムに参加しており、人材育成並びに医療の均てん化において、大きな役割を果たしている。既に、腫瘍センター、放射線部門、緩和ケアチームが整備され、今後ともがん診療において、中心的な役割を担っていく体制はできている。

<参考>

3 津山・英田医療圏 (医療圏内にがん診療連携拠点病院は一つ)

津山・英田医療圏は、人口約 18 万 (県人口 10.0%)、面積約 1,800 km² (県面積約 26.0%) を占める医療圏である。

○ 津山中央病院 (津山市)

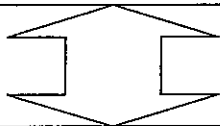
津山中央病院は、地域がん診療連携拠点病院 (平成 17 年 1 月指定) であると同時に、災害拠点病院、小児救急医療拠点病院、救命救急センター、エイズ治療拠点病院、地域周産期母子医療センターとして、地域医療の中心的な役割を担っている。なお、血液がん、小児がんに関しては、県南の医療機関との連携により対応している。

がん医療においては、放射線部門、緩和ケアチーム、がん相談支援センターを整備し、今後ともがん診療の中心的役割を担える体制となっている。10,000 人を超える年間入院患者のうち、18.1%を新規がん患者が占める。県北 (高梁・新見医療圏、真庭医療圏、津山・英田医療圏) の中で、唯一、がん診療連携拠点病院の要件を満たす医療機関である。

県がん診療連携拠点病院（岡山大学病院）

（主な役割）

- ・がん診療連携協議会の開催
- ・県内のがん診療に関連する医療機関等（訪問看護ステーション、調剤薬局等も含む）の機能を調査し情報公開をするとともに、連携体制を構築
- ・がん登録の登録項目の標準化
- ・地域がん診療連携拠点病院への研修・診療支援
- ・中四国の8つの大学（岡山大学、川崎医科大学、山口大学、香川大学、徳島大学、愛媛大学、高知大学、高知女子大学）が連携して、各大学院でカリキュラムを共有し、メディカル、コメディカルを含む多職種のがん専門職を養成している「中国・四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアム」を中心的に運営し、地域がん診療拠点病院と連携することで、広い地域にむらなく専門職を送り出し、高いレベルでの均てん化に貢献
- ・がん薬物療法専門医、放射線治療医、外科系腫瘍医、がん専門薬剤師、がん専門看護師、医学物理士を養成

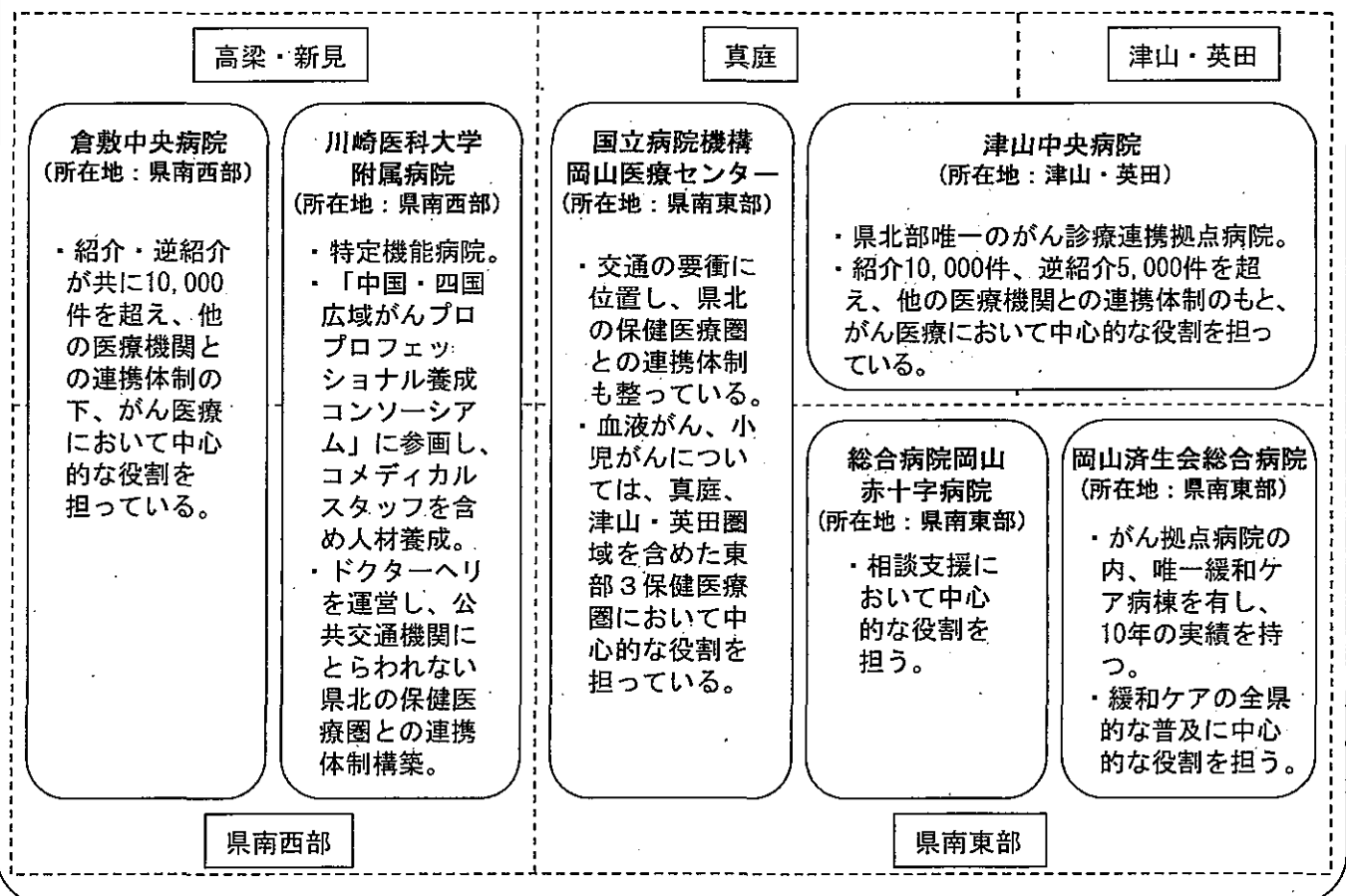


連携して高度ながん医療を提供

地域がん診療連携拠点病院

（主な役割）

- ・すべての拠点病院で5大がんをはじめ、種々のがんで集学的治療を実施
- ・各地域がん診療連携拠点病院が、それぞれ特色を活かして、他の拠点病院をリードし、高いレベルでの均てん化に貢献するとともに、二次保健医療圏の枠を超えて相互に幅広く連携



※この体制図は概略を示すものであり、この図に示す二次保健医療圏を越えた医療機関間の連携や患者受診を妨げるものではありません。

広島県

平成20年10月31日

厚生労働省健康局長 様

広島県知事
〒730-8511 広島市中区基町 10-52
医療政策課



がん診療連携拠点病院の現状の報告について

平成19年1月31日付け健発第0131005号で厚生労働省健康局長から通知のあったこのことについて、別紙のとおり送付します。

担当 医療支援グループ
電話 082-513-3063 (ダイヤルイン)
(担当者 松浦)

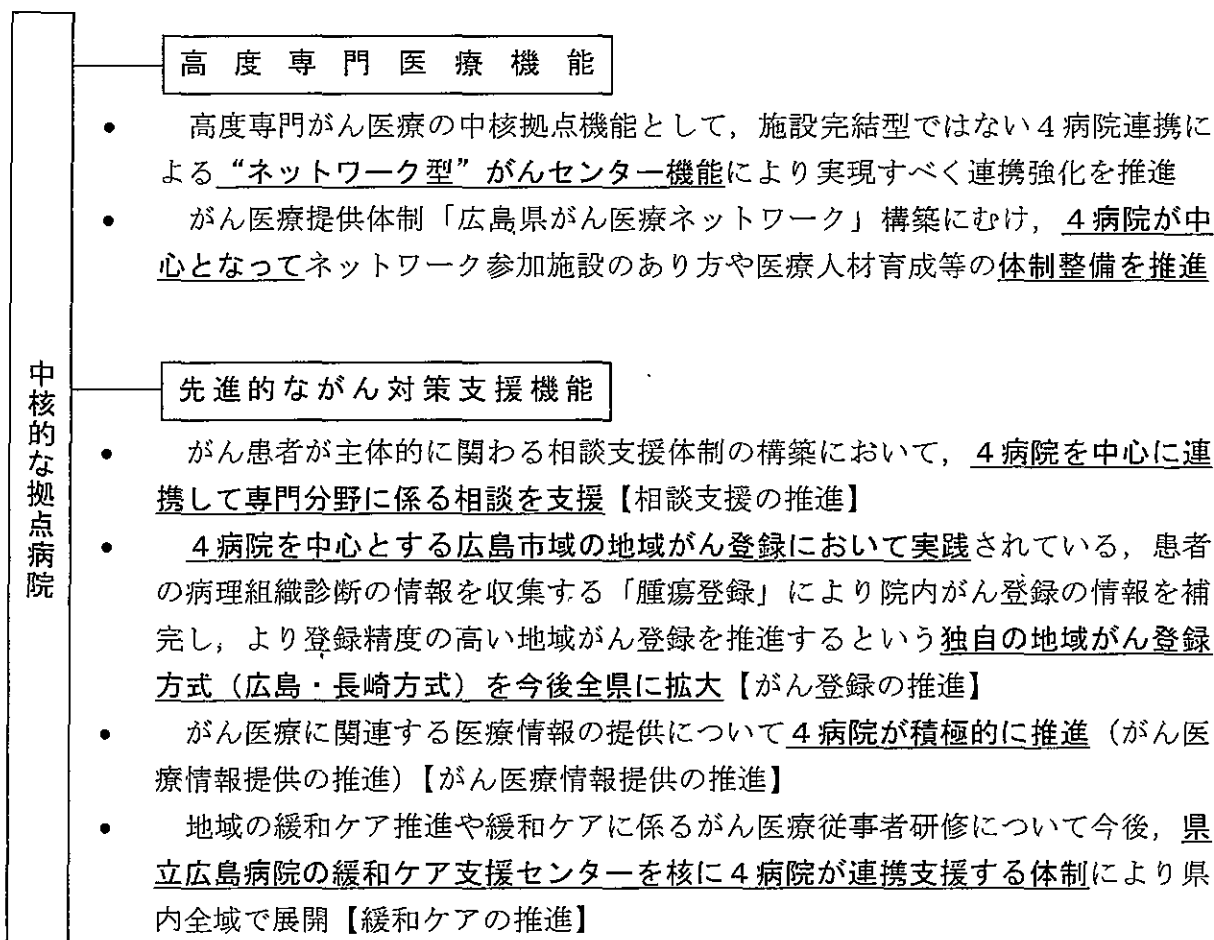
広島県がめざす機能連携を軸としたがん医療体制

～広島二次医療圏4拠点病院が果たす中核的機能～

I. 広島県がん対策推進に果たす拠点病院の役割と広島二次医療圏4拠点病院

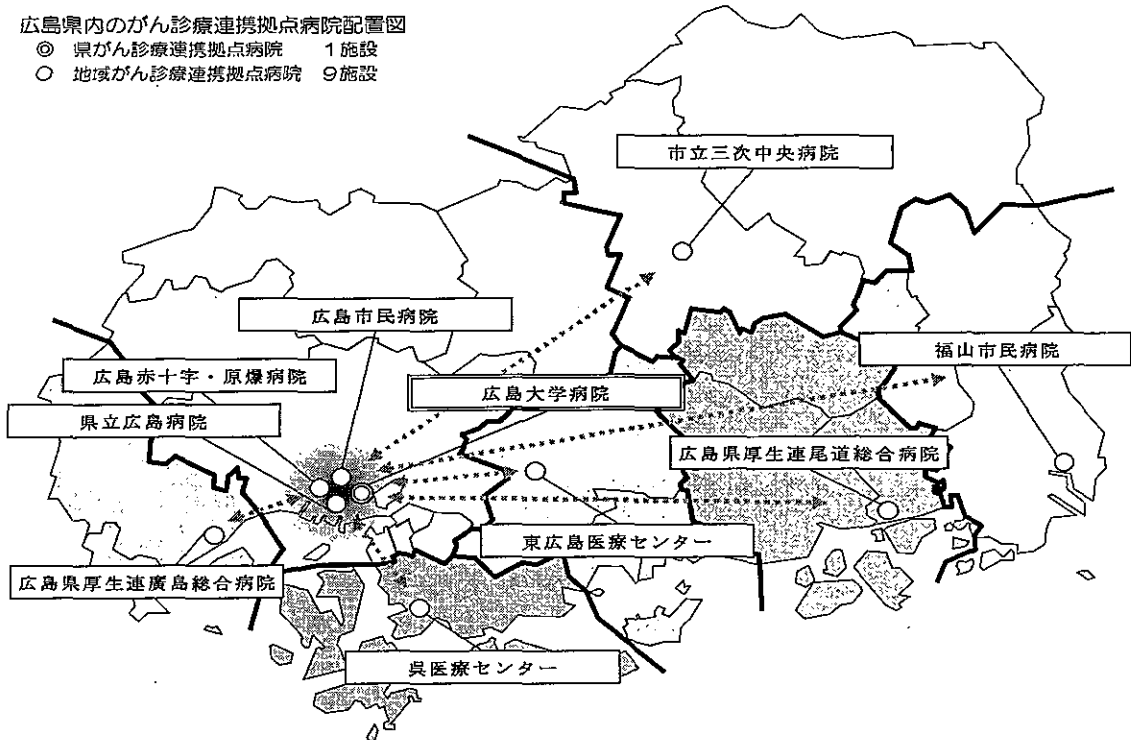
【概況】

- 広島県では、がん診療連携拠点病院（以下、拠点病院）の指定を契機として、県全体のがん対策を大きく進展させるための更なる取り組みを展開することとしており、昨年度策定した「広島県がん対策推進計画」において、これらの計画的な推進を掲げている。
- とりわけ、広島二次医療圏で指定された「広島大学病院」、「県立広島病院」、「広島市立広島市民病院」、「広島赤十字・原爆病院」の4拠点病院は、それぞれの特色を組み合わせ、連携した高度な専門医療機能とともに、患者相談支援やがん登録等のがん対策支援分野においても4病院の連携による先進的な機能や役割を担うなど、がん対策の“中核的な拠点機能”（中核拠点病院）により県全体のがん対策推進に大きく貢献している。



広島県内のがん診療連携拠点病院配置図

- ◎ 県がん診療連携拠点病院 1施設
- 地域がん診療連携拠点病院 9施設



1. 広島県の特徴と広島二次医療圏4拠点病院の必要性

～ ネットワーク型がんセンター機能の実現【平成18年度提出推薦書の要点】～

- 本県は豪雪地帯の県北部，瀬戸内海の島嶼部，県人口40%が集中する広島市都市部といった日本の地域特性をそのまま包含する地政学的特徴を備えている。（日本の縮図）
- 従って，本県のがん医療提供体制構築では，日本のがん医療均てん化の課題を共有しており，首都圏における高度専門的ながん医療の中核拠点機能の実現が広島市都市部に求められ，また，山間部島嶼部では地域密着型のがん医療提供ニーズがある。
- 広島市都市部における高度専門的ながん医療の中核拠点機能について，以下の観点から，本県としては，首都圏や他県の例のような“単一施設完結型”がんセンターではなく，がん医療機能の高い既存基幹病院群が役割分担と連携により機能する“ネットワーク型がんセンター”を実現することが適当と認識している。
 - ① 多様な慢性疾患を合併した高齢がん患者が今後増加することを踏まえれば，がん専門機能に特化するのではなく，一般慢性疾患にも対応可能な総合的な診療機能を重視する必要があること。
 - ② 大規模人口の首都圏や関西圏，あるいは基幹病院が少ない小規模県と状況が異なり，本県での施設完結型センター新設運営には費用対効果から課題が多いこと。
 - ③ 現存の広島市都市部基幹病院において，高度専門がん医療の提供が既に一定程度行われており，また，機能面でも県立広島病院の緩和ケア，広島赤十字・原爆病院の血液がん治療，といった特色を踏まえた連携が可能なこと。